

第6回 定住自立圏構想の推進に関する懇談会 議事要旨

【開催日時等】

- 開催日時：平成23年2月22日（火）15：00～17：00
 - 場 所：総務省7階 省議室
 - 出席者：逢坂政務官、佐々木座長、梶井委員、桑野委員、小西委員、残間委員、田中委員、辻委員、牧野委員、藻谷委員、吉村委員（農林水産省農村振興局長）、内山委員（経済産業省地域経済産業審議官）、岡本事務次官、門山地域力創造審議官、久元自治行政局長、原政策統括官
- 説明者：山野文部科学省大臣官房政策課長、瀧口国土交通省総合政策局次長
- 事務局：野村地域自立応援課長

【議題】

- (1) 資料説明
- (2) 意見交換
- (3) その他

【配付資料】

- 資料1 定住自立圏構想の進捗状況・今後の展開について
- 資料2 定住自立圏構想の推進に向けた関係各省による支援策（検討中）
- 資料3 定住自立圏構想の推進に向けた総務省の取組について

【資料説明】

- 事務局及び関係各省より、配布資料に基づき説明。

【意見交換（概要）】

今回の懇談会では、定住自立圏構想の今後の展開として、文化芸術の振興、地域医療の充実、産業振興に重点を置いて平成23年度の取組を進めることが議論・合意された。また、逢坂政務官から、地元函館の函館野外劇などの取組の紹介等があり、地域での文化芸術が果たす役割の重要性に関する指摘があった。出席者の主な発言は以下のとおり。

（定住自立圏構想に対する評価）

- 行政圏域ではなく、住民の生活圏・経済圏に合わせて圏域内の市町村で共通した施策を展開できることが定住自立圏のメリット。また、定住自立圏の大命題である大都市圏から地方圏への人の流れの創出を達成するには、人材育成と人材サイクルの構築が重要。

- 定住自立圏には、合併の協議が破綻した地域であっても、連携できる団体同士から段階的に取組を進めていけるという良さがある。

(今後の展開)

- 文化芸術を振興するにあたっては、地域の未来像についても視野に入れる必要がある。
- 地域の希望として、文化芸術は、未来の見えてくる分野であり、この分野の取組を充実・深化させ、地域の「誇り」を再建することが重要。
- 大学だけでなく、小中学校、高校も含めた地域の「知の拠点」における学びの機会をうまく活用し、地域社会の将来の担い手を多く巻き込むことで、地域社会の空洞化を解消し、地域を活性化することができるのではないか。
- 基礎自治体同士が連携して医療サービスを提供する体制を整えることで、単独では提供できなかった医療サービスを住民が享受することができるようになる。「医療の流れ」についての住民の理解も非常に大切。
- 魅力的な地域が形作られることで、結果として医療の地域偏在の問題も解消されるということもある。地域医療の問題を医療だけでなく、地域そのものの再生の問題としてとらえる視点も大切ではないか。
- 産業振興に関しては、企業の力をうまく活用することが需要。「定住自立圏」地域創富力高度化調査事業（平成23年度予算）等を通じて様々検討して欲しい。
- 定住自立圏の取組は、中心市と周辺の市町村との間の歴史的関係等、当該地域の固有の事情によるところが大きいのではないか。
- 昨今、地域住民の中には、社会的責任を意識し、政府頼みではなく、個人としてどんな地域貢献ができるかということを考える人が増えてきている。そのような中では、地域の夢であるとか可能性を引き出すような方向性がないと定住自立圏構想の推進力が出てこないのではないか。

- 定住自立圏の全国展開の推進力を高めるにあたっては、新たな宣言中心市を増やすという方向性も大事であるが、既に取り組んでいる団体の満足度を高め、これらの団体に対する外部からの注目度を高めることを意識しながら情報を発信していくことが重要。

- 周辺市町村のきらりと光る取組にスポットを当てて発信していくこと等により、「周辺」という呼称に対するイメージも変わっていくのではないか。